やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2011.2.27
VOL. 57

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号　NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895
http://www.tokyohomeless.com

最終章へ～　第17次越年越冬雑感

笠井和明

例年になく穏やかな気候に恵まれた年末年始であった。

冬と云う季節に、身一つもって立ち向かうのが野宿の人々が営々と続けて来た越冬の営みであるが、それに学び、よりマシな冬をと、我々が新宿の冬に飛び込んでから早17年。辛い冬も、のどかな冬も、いつもそこに居る仲間と共に共有して来た。

助けてやろうなんて云う傲慢な態度は取らず、そこに居る人々の生き様をじっと見つめ、語り、そっと支える。寄せ場の運動から続くその手法は、既存の福祉であるとか、制度を重んじる良識人からは、とんと理解もされていないようで、我々は戸惑い続ける。

見守り続け、共に同じ時間を過ごし、仲間と思える関係を作る事が「支援」ではないと云うのであれば、我々の17年間は無の連続であったのであろうか。

静かであるべき路上の冬であるのに、そこにさざ波を立てる「正義の味方」共を見ていると、暗澹たる気分になる。

社会問題の仕方もされ方も、決して熟慮の上でのものではなく、いかに扇動的なものであるかで決まり、それに飛びつくマスコミ共も、モノの見事な浅はかさで扇動に輪をかけ、人気商売の政治家も手柄を立てるには流行事が一番と飛びつき、揚げ句の果てに、当事者不在のまま施策や制度が、最悪の場合、法律まで決まってしまうと云う実に恐ろしい社会。これを良識と云うのであれば、非常識のまま生きて行きたいし、路上の仲間の方がよほど正直であり、愛おしく思うのである。

歴史から学ぶと云う視点すらない良識に、もはや何を語っても意味がない事なのかも知れないが、「ホームレス問題」と云うのは、既存の福祉、医療、また労働などの社会の制度が何一つ手を差し出さなかったが故にこれ程まで複雑怪奇化した社会問題でもある。何も役人が悪いと云う意味ではない。それを云うなら民間人もまた同罪である。既存の福祉の制度の中には社会福祉法人もあったし、民生委員など民間人の善意を活用しようとする制度もあった。少なくとも東京に暮らしていたのなら、彼、彼女等が路上にあふれ出るホームレスを知らなかった訳ではない。

そう云う専門家達が何も出来なかった時代に、路上のおっちゃん達が声を上げて初めて社会が動き出したのである。

お涙頂戴で始めた運動ではない。施しを貰うために始めた運動でもない。今より、少しでも良く仲間一人ひとりが生きられるようにと始めた当事者の運動が全ての原点でもある。

そこには今風の良識人などいなかった。すねに傷持つ異端児の集まりであった。それでも仲間のためにと、同調者を増やして行き、大きな力が生まれ、やがて既存の福祉、医療などの現場が自らの狭い枠を自覚し始め、殻を打ち破って来た。取り締まる立場の交番の警官やら道路、公園管理者の現場の職員が明日は我が身と同情をしたり、運ばれた先の医療機関の現場の専門家が、または窓口の福祉事務所の職員が日々接する中で見方を変えて来た。

そう云う中で「ホームレス自立支援法」が成立をし、現場を管理する立場の者も無視出来ぬ事態となった。

路上と路上に接点を持つ現場の、地道な関係作りの中で、ホームレスに係わる法律、制度は作られ状況は変わって行ったのであり、今風の社会問題とは作られ方が明らかに違うのである。

まあ、良識の話はどうでも良いが、せめてちゃぶ台をひっくり返さないようにしていてもらいたいものである。

なんだかんだの、このような歴史があり「ホームレス自立支援法」も目出度く期限の10年目となろうとしているが、事、この問題は人の人生単純じゃないのと同じように、そうそう簡単に「解決」するものではないようである。

しかし10年目の議論がホームレス概念が狭いから広げろ、もっと困窮者層に広げろなどと云うのは何とも嘆かわしい。そんな事は最初から言っていた主張であり、法律の拡大解釈で既に対象は広がっているのであるから、そんな事を後追いで主張したって何ら建設的ではない。

「ホームレス自立支援法」に我々のような専門家でもない人々が参画して来た事の意味と成果は何であったのか。あれだけ期待されていた市民の側が何を作り出して来たのか、そう云う自覚がなければこの法律など、たとえ続いたとしても永遠に有効活用など出来はしない。

東京で云うならば、路上生活者対策の「部品」はすべて出そろっている。そこには規模の大小、質の善し悪しはあるが、少なくとも「ホームレス自立支援法」が想定した目標に対する答えと云うものは、この10年の過程で既に存在している。

とは云え行政の施策と云うものは作るのは一生懸命やったとしても、その後の点検であるとか、バリエーションを増やそうという発想には乏しい。完成間際なのだから、その各部品をつなげてしまえば良いのであるが、図面上はつながってはいるが、立ち上がるとバラバラに落ちてしまうと云った感が残念ながらある。なので、点検も出来なければ、バリエーションを増やそうとも、実績が良く分からないし自信もないものｄからそこから先へと進まない。この接着剤役と発想の豊かさは民間の方が得意なので、そこにこそ我々の出番があるのだが、まだまだ10年経ってもそこへと行き着かない。

ある程度、民間で作ってしまおうとなったのが、ようやくここ数年であるが、気づくのが明らかに遅かったようである。

「こんな宿泊所じゃ野宿の方がマシ」と云う仲間の声に押され、宿泊関係をようやく自前の力でやり始めて来たものの、そこからのスタートは可能でも、そこへの導入部が、とりわけ緊急宿泊において作られ切っていない。路上の現場と、「自立支援法」で想定されている各施策への「つなぎ」がまだまだスムーズではないのである。せいぜい炊出し時などのチラシ配布の情報提供の段階に留まってしまっている。行政の巡回相談が市民からの苦情相談にしかなっていないのであれば、我々の側で当事者のための巡回相談を編み出して行く必要があるのに、そこに踏み出し得ないのだから、まだ及第点は貰えまい。

言い訳を云えば時代状況に影響され過ぎて右往左往していたのがここ数年で、そのブランクを埋める時間が足りなかったとも云えるが、惰性に流されてしまうのと、批判をすればそれで満足してしまう、我々の悪しき習性が未だ残っている証でもある。

少なくとも「ホームレス自立支援法」は官民でこの問題に真剣に取り組もうとしたのであり、行政が行政の限界を我々と当事者との関係性や民間の豊かな発想力と行動力で、その欠点を補おうとしたものであるからして、その点でこの10年はどうであったのかを検証しなければ、恐らく前へは進めないであろう。

また、東京都などは、「部品」は作ったまでは良

いが、各部品一つひとつの精度をどのように点検し続け、また高めて行ったのかの検証も必要であろう。時代状況に振り回されたのは、まさに国や東京都の方であり、路上生活者対策と云いながら、その裏で派遣労働者を路上生活者にしない為とか、適当な理由をつけ拡大解釈をした揚げ句、収集がつかなくなって、その煽りを路上の当事者に、結果的に押し付けてしまった事も総括されるべきである。

味噌も糞もみんな一緒の議論でホームレス概念が広げられたら、それこそ勤労者全員ホームレスである。物事には優先順位と云うものがある以上、重点課題へ向けた視線を何があろうとも外さないと云う姿勢と覚悟こそ問われているのであろう。

まあ、何でもかんでも役所や政治が悪いと言って、現場の矛盾を役所に押し付け、後は知らんプリと云うのが、最近の良識のようであるが、そんな無責任な態度は、ここまで長くやっている我々にはとうてい取れない。

当事者の意思から発せられた運動である以上、当事者の力であるとか、それに寄り添う市民の力であるとか、民間の力であるとか、それをどう発展させるのかが、我々の永遠のテーマである。そう云う責を負ったものはとうてい「お気楽トンボ」にはなれないものである。

とは云え、だいたいは我々は経験を積んで来た。水も甘いも地獄も天国も、ありとあらゆるものを路上から見て来たような気がする。

もうこれ以上の混乱はないと想定するならば、知らず知らずと４コーナーは回り切ったのだろう。自分がどこのポジションにいるのかは、視界が悪いので分からないが、晴れていれば、きっとゴールは目と鼻の先である。

走りながら考え、考えながら走り、まあなんと長い道のりであったことか…。

越年の雑感がまたしても脱線した。

越年期中のもろもろの課題は一年かけて、そこそこ解決された。同じ事の繰り返しではあるが、全体のレベルはそこそこ上がったのかなとも思う。しかし、まあ、おっちゃん達が働く事、働く事。毎年毎年よくも飽きずにと思う程、呑んだり騒いだりと、楽しい事、楽しい事。

今年は人数もようやく落ち着き、仲間同士の喧嘩やら対立が少なかったのが幸いしてか、それとも例年以上に暖かい６日間だったおかげか、無事平穏な日々であった。

静かな冬は静かであるべきである。越年越冬は仲間による仲間の命を守る闘いである。そこに仲間が居る限り、そして四季が繰り返される限り、連絡会があろうともなかろうとも、仲間による越年の闘いは続けられる。

そこに今年も加われた事を良しとしたい。

年末年始、田舎にも帰らない良識のないボランティア諸氏も大勢来てくれました。本当にご苦労さま。真冬の路上で演奏や劇をしようとする無謀なミュージシャンの方々や劇団の皆さんもこれまたご苦労さま。その他さまざまな形で、良識のカケラもない連落会ごときに支援をして下さった方、感謝感激です。

越年後、東京は急に冷え込んでしまったものの、皆そこそこ元気である。決して落ち込んではいない。人生を諦めてもいない。ここには仲間が居るのだから。

連絡会の一年は路上で始まり、路上で終わります。

（了）

パトロール班活動報告

新宿連絡会パトロール班

ふだんのパトロールは日曜日に新宿駅周辺、水曜日に高田馬場で行っている。越年期は曜日にかかわらず、12/29～1/3 のうち 5 日間にコースをいくつかずつ振り分けた。中央公園を基点に、時間帯は<20：00～><22：30～>の 1 日 2 回を軸とし、そのつど簡単なまとめをした。ほかに<24：00～終電間際>を期間中 2 回(集計せず)、<深夜 2：00～>を 1 回試みた。

新しい顔や久しぶりの参加者を伴い、事故などなく終えられた。寒い時期は路上の寝支度が早く、言葉を交わす機会は限られたかもしれない。薬袋を携え、使い捨てカイロを多めに配った。体調が思わしくない相手は医療テントに誘うはずだったが、そうした例はほぼなかった。

接する人の数は、ここ 3 年で比べると 2 割前後減っていた。このところの全般的な印象をなぞる結果となった。特に、地下を含めた西口近くでその傾きが強い。理由ははっきりしないが、そちらに浮動層が集まりやすいせいだろうか。いずれにせよ、なお少なくない仲間が外にとどまっている。数字は個々の状況までつぶさには教えてくれない。

今回の越年は 6 日間と、さほど長くなかった。パトロールに関しては、12/26 の日曜日を始まりととらえ、ふだんとは違う範囲に活動の予定を知らせて回ってもよかった。越年期特有の地域や時間帯をどう取り入れていくか、これからの課題としたい。

中央公園に戻ると、温かい食事が用意されていた。いつものことながら、本当にありがたかった。身も心も生き返る思いがした。仲間との出会いを求めて、今年も新宿の街を歩きます。

越年パトロール記録

日付	時間	中央公園	西口	東口	北口	高田馬場	4号街路	地下広場	合計
12/29（水）	20：00～	128	25			85			
	22：30～						32	54	
12/30（木）	20：00～			58	30				
1/1（土）	20：00～	123	38	70					
	22：30～						39	44	
1/2（日）	2；00～		23（カリヨン橋周辺）	30（靖国通り～ルミネ）	6（西武 新宿駅）		65	79	
	20：00～				40	91			
1/3（月）	20：00～		23	55					
	22：30～						32	49	
平均（1/2の深夜を除く）		125	29	61	35	88	34	49	421
昨年度平均		148	51	51	26	108	60	79	523
一昨年度平均		121	67	70	39	98	90	70	555

路上のいのちを守り抜くために～医療班越年活動報告

新宿連絡会医療班

新宿連絡会医療班は今越年も 24 時間態勢の医療テント運営を実施しました。新宿中央公園の医療テントではボランティアの医師と看護師が一日２交代で相談にのり、重症者に対してはテントでの一時保護を行ないました。

今越年の活動で特筆すべきことは、１件も救急搬送がなかったことです。かつての越年で一日に２回も３回も救急車を呼んでいたことを思えば、隔世の感があります。その背景には、福祉事務所での日常的な対応が改善されたために越年期に重症者が路上に残されることが少なくなったことがあります。また、今越年では新宿区福祉事務所の協力により緊急時の医療機関受診が可能になり、NPO 法人新宿ホームレス支援機構の宿泊施設（馬場ハウス）を緊急シェルターとして使用することもできました。「越年期に路上に残される人々を見捨てない」ための体制が官民の協力により実現したことは、長年の活動の大きな成果だと思います。

重症者への緊急対応は減ったとは言え、路上での医療相談活動のニーズが減ったわけではありません。医療班は引き続き、路上のいのちを守り抜く活動を続けていきたいと考えています。

（稲葉剛）

2010-11 越年期
新宿連絡会集中活動・医療班報告

（まとめ：大脇甲哉、稲葉剛）

活動期間：2010 年 12 月 29 日から 2011 年 1 月 4 日まで 7 日間

活動場所：新宿中央公園水の広場（12 月 29 日-1 月 4 日）及び戸山公園（1 月 3 日）

活動内容：医療テントを設置、医療職ボランティアによる昼夜 2 交代・24 時間対応

血圧測定、創処置、医療・歯科相談、市販薬提供、衰弱・要介護者の保護、福祉生活相談集中医療相談・鍼灸あんま相談（12/30、1/3）、生保申請手続き時付添（1/4）

生活自立し介護不必要な人は、シェルター（馬場ハウス）に緊急一時宿泊（1/4 まで、今年度から開始）

ボランティア 54 名：医師 15、歯科医師 1、看護師 17、薬剤師 1、医療系学生 5、鍼灸師・学生 12、一般 3

＜医療テント活動＞

（　）内は 09-10 越年期の数

医療相談記録作成者数

41(49)　男性 39(48)　女性 2(1)

平均年齢：

52.3 歳(55.8)、最低 25 歳(36)、最高 74 歳(71)

年齢分布：

20 代 1(0)、30 代 5(4)、40 代 9(6)、50 代 15(22)、60 代 9(15)、70 代 2(1)20-39 歳 14.6%(8%)、40-64 歳 70.7%(73%)、64 歳以上 14.6%(19%)

医療テント宿泊保護者数

9(7)　延べ数 18(16)（人Ｘ日数）　全員男性

年齢　テント宿泊日　症状：対応　経過

1. 63 歳　12/30-1/3　両下肢蜂窩織炎・歩行困難　：足浴・軟膏処置、内服、車いす介護。1/4 入院
2. 66 歳　12/31-1/3　腰痛　：越年明け受診希望せず
3. 37 歳　12/31　糖尿病　：1/1 から緊急一時宿泊。1/4 入院
4. 63 歳　12/31　膝関節痛　：1/1 から緊急一時宿泊。1/5 受診　施設入所
5. 55 歳　1/1　高血圧　：1/2 から緊急一時宿泊。1/4 受診
6. 41 歳　1/1　感冒　：1/2 から緊急一時宿泊。1/6 受診　施設入所
7. 66 歳　1/2-3　大腿骨骨折術後後遺症：1/5 受診
8. 45 歳　1/2-3　高血圧・狭心症　：1/5 受診　施設入所

9. 57 歳　1/3　大腿骨人工骨頭術後　：1/4 福祉来所時、生保継続中判明、川崎市への交通費支給

馬場ハウス緊急一時宿泊者数

7　延べ数 19（人 X 日数）

相談後直接宿泊者　全員男性

1. 58 歳　12/31-1/3　アルコール依存・断酒希望　：施設入所。1/8 入院
2. 35 歳　1/1-3　住宅手当手続き中　：施設入所
3. 62 歳　1/2-3　高血圧・発疹　：施設入所。1/5 受診

医療テントから移行宿泊者 4 名

救急搬送：0 件　越年期緊急入院：0 件
越年期緊急受診：1 件（高血圧）

相談時症状：高血圧 6、蜂窩織炎 4、感冒 4、歯科疾患 4、腰痛 4、皮膚炎 3、歩行障害 2、白癬 2、骨折後遺症 2

相談時対応：越年明け受診指示 13、湿布 5、足浴・軟膏・創処置 5 名（延べ 21 件）、風邪薬 3 など

薬品提供延べ数 399：風邪薬 220、胃薬 69、鎮痛剤 55、整腸剤 11、下痢止め 10、湿布 57、テープ 64、軟膏（白癬 11、掻痒疹 10、ひび割れ 20）、カイロ約 400、マスク約 400

＜越年活動結果 ＞

紹介状枚数 13 (24)
医療機関受診 10(16)：高血圧 4、骨折後遺症 2、関節炎 1、上気道炎 1、蜂窩織炎 1、歯破折 1
入院治療 3 (1)：蜂窩織炎 1、アルコール依存 1、糖尿病 1
施設入所 8 (4)
新宿以外の福祉へ 1 (4)
生活保護受給者の相談 4 (10)

＜2011 年 1 月 4 日　福祉行動報告＞

※性別は全員男性。（紹）は医療班による紹介状が出ていることを意味しています。

＊中央公園テントより

66 歳　（紹）右大腿部痛、歩行困難　2 日～医療テント泊　広尾病院 5 日予約、翌日再来所
63 歳　両足痛、皮膚炎、歩行困難　30 日～医療テント泊　池袋病院救急入院
57 歳　（紹）両側人工骨頭術後（大腿骨）、左大腿骨骨折後遺症　他地域で生保継続中と判明。交通費貸付
45 歳　（紹）高血圧、狭心症　2 日～大テント泊馬場ハウス入所、翌日受診

＊馬場ハウスより

58 歳　アルコール依存症　31 日～馬場ハウス泊
馬場ハウス継続、秋元病院入院予定
37 歳　（紹）糖尿病　1 日～馬場ハウス泊
医療センター入院
63 歳　（紹）両膝痛　1 日～馬場ハウス泊
馬場ハウス継続、5 日医療センター受診予定
41 歳　頭痛、咳　2 日～馬場ハウス泊
台東区生保は廃止と判明。新大久保寮入所。6 日受診予定
55 歳　（紹）高血圧　30 日社保中緊急受診　2 日～馬場ハウス　社保中受診
62 歳　（紹）高血圧、両前腕・両下腿・頭部発疹　2 日～馬場ハウス　馬場ハウス継続、5 日東京医大受診予定
35 歳　住宅手当手続中。1 日、置き引きにあい、馬場ハウスに直接相談・入所。新宿ノースホテル入所

＊その他

59 歳　（紹）左尺骨骨折術後、肘頭部キルシュナー露出　東京医大受診、葉留入所
50 歳　（紹）左第三指ひびわれ、疼痛
春山外科受診、馬場ハウス入所。その後、港寮入所予定。
63 歳　（戸山・紹）胃潰瘍治療中断
やまて寮入所。後日受診。
55 歳　12/21 静岡県より上京
家族が交通費を振り込む

以上

2010/12/29～2010/1/3越年炊き出し実数表　新宿中央公園「水の広場」

月日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日
曜日	水	木	金	土	日	月
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
新宿昼の炊き出し実数	444	270	320	230	315	295
新宿夜の炊き出し実数	192	272	317	304	296	336
参考（池袋昼）	78	85	94		105	108
参考（池袋夜）	130	139	178	248	208	225

＊池袋の炊出しと新宿の炊出しは昼夜共同時刻に実施のため重複はあり得ない。

池袋+新宿合計（昼）	522	355	414	230	420	403
池袋+新宿合計（夜）	322	411	495	552	504	561

特記事項	東京都「年末における生活・住居困窮者支援事業」12月29/30日受付 12/29日昼はアントニオ猪木氏による炊出し 渋谷の炊出しは今期より昼食はなし　中央教会などの支援は例年通り 山谷越年越冬対策入所者約300名

	述べ人数	平均	対前年度比
新宿昼の炊き出し実数	1,874	312	-11
新宿夜の炊き出し実数	1,717	286	-81
	述べ人数	平均	対前年度比
池袋+新宿合計（昼）	1,822	391	-7
池袋+新宿合計（夜）	2,523	474	-61

炊き出し実数については、年末年始特有の急増は幸いにして今年はなく、新宿と池袋の数を足しても、想定内の範囲の増加に留まった。昨年、一昨年が異常であった故に、元に戻ったと言えるであろう。

10-11越年深夜パトロール記録（概数調査）

	12月30日 小雨	1月1日 晴れ	計
都庁周辺	22		22
都庁第二庁舎	80		80
西口地下広場	70		70
4号街路北	33		33
４号街路南	45		45
明治通り	1		1
戸山公園	92		92
諏訪公園	5		5
諏訪の森公園	8		8
高田馬場駅周辺	4		4
神田川	1		1
江戸川公園	7		7
音羽公園	31		31
神宮外苑周辺	28		28
飯田橋駅周辺	0		0
中央公園		115	115
計	427	115	542

＊駅周辺部分は終電後に調査

29日の段階で越年のだいたいの傾向が分かってしまった事もあり、今年の概数調査は極めて雑な調査にしかならなかった。なので記録は深夜、広域回り程度のものである。まあ、一年も経てば野宿地はいろいろと変わるのであるが、だいたいこちらが把握している場所の範囲内に点在しており、基本構造はここ数年、何ら変わっていなかった。新宿駅において数が増加していなければ、各地もまた増加の要因はなく、それぞれ知った顔同士で自分達の生活エリアを守り抜いている。例年だと冬の野宿の仕方を知らない仲間にも多く出会うのであるが、今年はそのような新人さんはさほど見受けられず、皆、それぞれ工夫しながら寝入っていた。

さよならウッちゃん　追悼～内田敏男

池袋の闘士、内田敏男氏が1月27日、救急搬送先の病院で亡くなった。享年72歳。

池袋駅で野宿しながら仲間を作り、夜回りをしたり、炊出しをしたり、国会へ行ったりと奮闘をし、新宿の仲間と池袋の仲間が初めてつながり合った在りし日が思い出される。

彼無くして池袋の仲間の運動は無かった。

活動家の真似をするでもなく、弁舌を駆使する訳でもなく、自分の器だけで、駅周辺でバラバラにされていた仲間をまとめあげ、池袋連絡会を結成させた過程は、今思えば奇跡に近い。

当事者が仲間をまとめあげる至難さを、決して表には出さず、泣き言も言わず、深刻さのカケラも見せずに「能天気」であり続けた彼の姿が、知らず知らずと池袋の地に浸透し、同じ仲間をなんとなく立ち上がらせたのかも知れない。

池袋の運動を引いてからも善い人であり続けた。酒と女と路上と仲間をこよなく愛し、陽気になればいつもニコニコ。金がなくなりゃ何でもした。良識人からは嫌われものではあったが、そんな事意にも介さず、うらやましい程人間らしい生き方を貫いた。

最後は福祉ではなく、池袋の公園で倒れそのまま逝ってしまうなど、いかにもウッちゃんそのものである。

お棺の中のウッちゃんは何とも幸せそうな死に化粧であった。

仲間のためにありがとう。そして、さようなら。

新宿連絡会

2010年11月～2011年1月会計報告

越年の取組みへの寄付大変助かりました。越年期の大きな出費を賄う事もでき、本当にありがとうございした。

新宿連絡会はすべて民間の支援で運営されています。集まったお金はすべて仲間のために使い切ります。引き続きのご協力宜しくお願いします。

収入)		支出)	
炊出部門寄付	81,790	炊出し事業費	409,053
活動部門寄付	0	諸活動費	1,234
越年越冬部門寄付	2,851,441	越年越冬事業費	1,241,349
その他寄付	679,436	池袋支援費	130,000
前繰越金	△9,919	事務用品費	22,045
		旅費交通費	18,130
		通信費	191,086
		消耗品費	35,899
		車両費	31,897
		事務所費	690,000
		支払手数料	7,740
		衛生管理費	3,416
		諸雑費	262
		前期繰越金	△9,919
		次期繰越金	830,556
合計)	3,602,748	合計)	3,602,748

●活動カンパ

振込は、　郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、http://www.giveone.net/「Give One（ギブワン）」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号　新宿連絡会　宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）でお願いします。